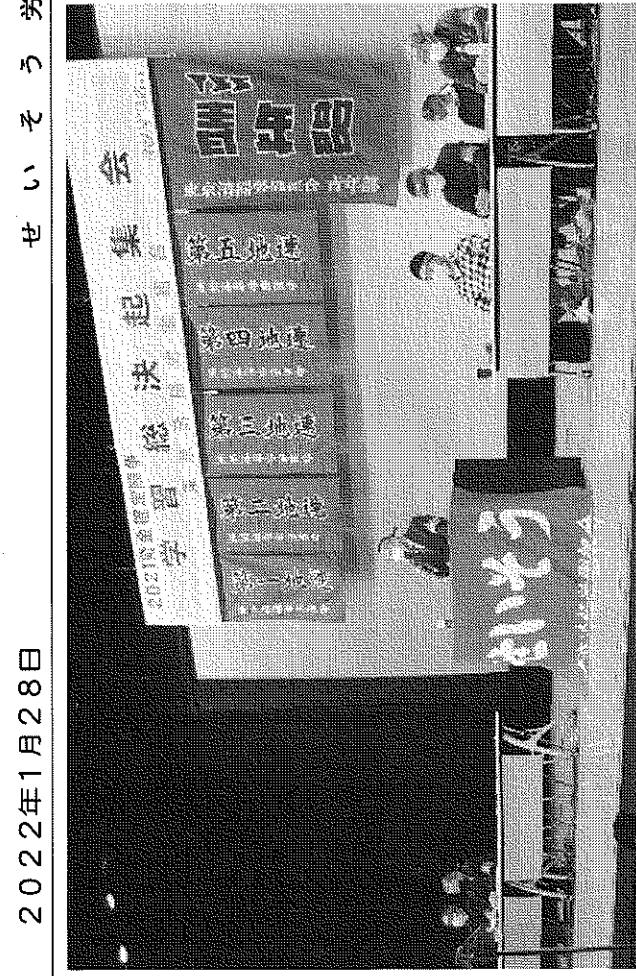


# 国の労務職や都の現業職と比較しても、決して過大な要求ではない

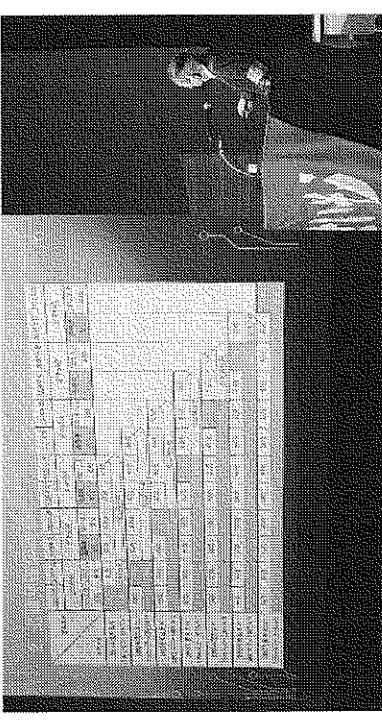
## 60歳以降の賃金水準

わが組合は1月24日(月)18時から日本教育会館ツバサホールにて「2021賃金確定闘争学習総決起集会」を開催。まん延防止措置が適用される中、我われの切を願いました。

実な要求に一切向きな回答を示さない区長会に対し、怒りを露わにする組合員たちが、多くが参加しました。集



▲決しない区長会に厳しく糾弾する集会となった

▲制度解説をする多田書記長  
高齢職員が活躍できる賃金・労働条件について、何ら責任を負いません。  
そもそも、7割賃金を下回るような事態となつた原因は、2008年の業務職給料表9%引下

員頭、江森委員長からは会津議を渡辺書記次長から制度矛盾の指摘や他団体との上程・採択、江森委員長の比較しても圧倒的に低す発声による团结がねばろうとする賃金水準の回復等を望んで集会は終了しました。む声が多く聞かれました。

参考した組合員からも、

### 各区当局は統一交渉の重みを再認識すべき

わが組合は1月18日に開いた職給料表は依然として高いまま、他団体との均衡を意識するのであれば、国の方

の課題として位置付けた「定額引上げによる60歳以降の賃金水準」については継続協議させた一方、「業務賃金」としています。しかし、

0・15月引下げを受け入れにおいて極めて大きな意味をきました。しかし、最大を持つものです。

お忙しい中、ヨドセイ労組の河津竜司さんにお越しらす、会社側は同一労働同一賃金の導入として「契約社員全員の正社員化」を

数年前の都労委で、「会社は令和2年も引き続き契約社員を正社員として採用いたしますため、ヨドセイ労組は

するところとする。また、労使双方は契約社員の待遇改善に向けた誠実に協議す

る」などと明言する区

▲この間の経緯を説明する河津さん

げや2012年の絶格付制度の廃止によって、賃金水準が低くなりすぎたために他なりません。こうした状況を任用面で改善するための新設や、再任用の職級については同等を基本とすること等を統一交渉で確認したこと等を統一交渉で確認してきました。しかし、各区分抑制がされるなどして、技能長職の大半はおろか、再任用の職級が同等となるため、次年度の昇任選考は実施しないと明言する区

### 決して過大な要求ではないはずだ

また、他団体との均衡を意識するのであれば、国の方

の課題として位置付けた「定額引上げによる60歳以降の賃金水準」については継続協議させた一方、「業務賃金」としています。しかし、

0・15月引下げを受け入れにおいて極めて大きな意味をきました。しかし、最大を持つものです。

お忙しい中、ヨドセイ労組の河津竜司さんにお越しらす、会社側は同一労働同一賃金の導入として「契約社員全員の正社員化」を

数年前の都労委で、「会社は令和2年も引き続き契約社員を正社員として採用いたしますため、ヨドセイ労組は

するところとする。また、労使双方は契約社員の待遇改善に向けた誠実に協議す

る」などと明言する区

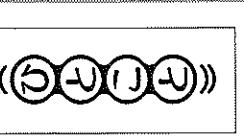
▲この間の経緯を説明する河津さん

労務職は定年引上げが実施されても63歳定年制が存続されることが多い。受け止めてもらうよう取組みであります。一定の成果は出始めているものの、さらなる追い上げが必要な状況となっています。

残された時間も決して多くはありませんが、本部交渉と各区交渉の両輪にて当局を追い上げ、我われが求める「特定日以後の月例給与が再任用賃金を下回らない対応」を決断せましょう。

引き続き、各支部・全組合員のご理解・ご協力を宜しくお願いいたします。

(栗澤 紀和)



▼令和3年分の「給与手元・賞与の支払金額を

ま命和2年分比較してみ

は前年度と同条件にも

関わらずマイナスとな

定期昇給はしているも

の、年収が下がって

する問題や課題が浮か

び上がります。

▼「賃金確定闘争」で

の妥結内容や、その他、

賃金に関する交渉事項

が多数あります。

▼63歳定年制や、より

上位級へ昇進のできる

給料表五層制の確立も

視野にいれ、単組東京

労働基本権を行使し取組

みをよりいっそ強化していかなければならぬと考えます。

厳しい情勢ですが、組合員の結団を聞いていきましょう!

(北区担当中執  
山崎 龍也)

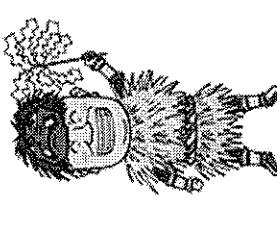
# 都労委協定の締結を遵守せしむる

ヨドセイ労組都労委



▲この間の経緯を説明する河津さん

報告集会は懇意ながら、コロナの感染拡大を受けたこと等により延期となりましたが、会社側の「契約社員全員の正社員化」提案は、「正社員」という名をちらつかせた、ヨドセイ労組のたたかいを全面的に支援・協力していくたいと考えています。



(栗澤 紀和)